

## アメリカ人と日本人のコミュニケーションの違い

山田 里奈

今回のトーランスと柏の交換派遣プログラムは、私にとってアメリカを訪れる初めての機会でした。この派遣プログラムに参加するまでのアメリカ人に対するイメージは、フレンドリーでオープンな性格であるというものでした。しかし、実際にトーランス生やホストファミリーの方々などと交流をしてみると、確かにフレンドリーでオープンな性格でしたが自分が予想していたアメリカ人らしさとは少し違う部分がありました。日本人、アメリカ人といっても、性格や特徴をひとえに決めつけることは



はできませんが、少なくともその国の人「らしさ」というものがあるのではないかと思います。文献や自分の体験をもとにアメリカ人の性格やコミュニケーションについて考えてみました。

まず、「フレンドリー」、という面についてですが、アメリカ人は初対面の人にも愛想が良い印象がありました。日本だと、出会ってすぐの人とは挨拶を交わすだけであることが多いですが、アメリカ人の様子を見てると何かしらの会話が始まっていることがほとんどでした。出会った人すべてに「ハイ」と声をかけるのは、「相手の存在を民主的に再確認していることを示す」ためであるそうです。自分の職や地位に関わらず誰とでも対等な会話をするという特徴があることが分かりました。実際に、私の前半のホストファミリーでトーランス現市長の Furey さんはとても話しやすく、接し方も一般の人との距離が近いと感じました。しかし、「フレンドリー」という特徴には、入りやすいけれど打ち解けにくいという面があり、最初から楽しく会話ができても深い関係になるのは難しいそうです。「日本人の場合、外側の殻を破るのは大変だが入ると自由」、アメリカ人はその反対で「外側の殻はとても破りやすいが、内側の殻ほど破りにくい」と表現されていました。このことから、お互いに信頼した親密な仲になるまでに必要な時間はアメリカも日本も同じで、どの段階で打ち解け始めるのかということが異なるだけなのではないかと思いました。深い仲になっていない人とも会話を弾ませることができるアメリカ人は、表面上だけのものなのではないかというマイナスな考えもありますが愛想が良いのと親密な関係になるということは別のことであり、最初の会話が堅く始まりがちな日本人に比べて、より多くの人と楽しい時間を過ごすことができているという点では良いと言えます。また、最初の楽しい会話はその先の関係を深めていくきっかけにもなると思います。

次に、アメリカ人の会話を弾ませるポイントは何なのかということについて考えてみました。やはり、日本でも同じように話題選びが重要であるそうです。話題としては、仕事、出身地、家族、お互いの習慣がメジャーだそうです。日本では、仕事や家族の話あまり親密でない人には話さない傾向がありますが、アメリカでは話が盛り上がるようです。ここから、アメリカ人の「オープン」な性格が分かります。実際に、私の後半のホストファミリーだった Jennifer さんもお母さんや弟さんに関する話をたくさんしてくれました。しかし、アメリカでは宗教を持っている人が多く、それらについては個人的な問題であると考えられているため、宗教に対する発言は慎重であるようです。また、アメリカ人の話し方の特徴としては、短い会話でも自分の個性のにじみ出た発言をするということが挙げられるそうです。たしかに、トーランス生やホストファミリーなどと話をしていると、「私は～思う」というような自分の意見を述べる発言が日本人より多かったと感じました。アメリカ人の会話におけるストレートさは、自己主張がきついということではなく、言葉の使い方を工夫してどんな形にしても伝えたいことは伝える、という意味での「ストレート」であるということなのではないかと思いました。他にも、アメリカ人は沈黙を好まないという性格があるということが分かりました。日本人同士の会話に比べて、アメリカ人同士の会話は多く、どんなにくだらない話でも常に話が止まらないという様子が見受けられました。車の中で常に音楽をかけているのも、静かな空間をつくらないためなのではないかと考えられます。

これらのことより、アメリカ人の「フレンドリーさ」「オープンさ」は単純なものではなく、さまざまな背景を踏まえたうえで成り立っている国民性であるということが理解できました。